



あけましておめでとうございます。

東京井波会会長 辻 明信

東京井波会

清々しい新年をお迎えと存じます。ふるさと井波の多福多運を祈っていますが、最近、富山県で何かと井波が話題になることが多く、他地域から羨む声が東京にまで聞こえてきます。明るい未来に向けて若い皆さんがアイデアを出し実行に移して盛り上げているお陰だと感謝し敬意を表します。東京から見ると、井波の魅力が輝いて見えます。国は観光立国を掲げて観光に力を入れており、東京をはじめ有名観光地は外国人で溢れています。井波もその流れを呼び込んで内外の観光客で賑わって欲しいと願っています。今号は外から見る視点で井波を観光の名所にしたい。そのために井波の魅力、隠れた価値を取り上げています。地元の皆さんのご尽力の参考になれば嬉しく存じます。私共も微力ながら応援したいと思います。2024年、井波が未来に向かってさらに飛躍する年となるよう祈念いたします。

井波を観光の名所に

井波は、観光地としては隠れた存在でそれなりに知られていますが、残念ながら観光地としての知名度は高くありません。多くの方々の尽力の陰で隠れんぼしているようです。魅力を底上げして、知られた存在になりたいですね。井波に近い金沢、高山は観光客で溢れています。コロナ反動のリベンジ旅行もあり、北陸新幹線は混雑し海外からの旅行者も増えています。外国に北陸



の魅力が広く知れ渡っているからです。そんな中、井波はどうでしょう。江戸時代、加賀藩下にあつて北陸の風土の中で独特の伝統文化・歴史、自然景観を持っています。金沢観光客の1%でも来れば十分な賑わいになります。魅力をどう伝えるか。瑞泉寺、木彫刻、八乙女山などに加え、新たな視点で魅力を発信できないか。どうしたら観光客の関心を引き寄せ、来て喜んでもらえるか？次に観光について考えてみましょう。

観光の楽しみ方

観光すると、日常を離れて異郷の地で見聞を楽しみ心が癒されます。訪問先は新たな見聞、刺激を求めて選ぶものです。景観を楽しむだけでなく、訪問先で説明を聞いてこそ満足度が高まるとデービッド・アトキンソン氏（観光立国を国に提言、日本遺産審査委員）が強調しています。どんな説明でしょうか？デービッド・アトキンソン氏がダメな例を挙げていました。かつて京都二条城の「大広間」に



“Big Room” との案内板しかなかったので足を止める人がいなかった。しかし、重大な歴史を刻んだ大政奉還の場であったとの説明に変えたところ、外国人の満足度が高まったそうです。外国人にはクーデターでない平和裏の政権移譲の説明はインパクトがあったのです。同様に井波にも生かせるストーリーが隠れていると思います。距離も期間も、長旅をする人にはこだわりがあり、それに応えてこそ納得してもらえるのです。

国策となった観光立国

国は、インバウンド（日本に来る）観光客を増やそうとしています。赤字続きの貿易収支を外国人観光客からの外貨で補う。デービッド・アトキンソン氏が提言したとおり、今や日本は観光立国になっています。コロナ禍のためにおよそ2年間、旅行が低調でしたが、今は急速に回復し、円安もあり外国人観光客が驚くほど日本各地で目立ちます。さらに政府は今の倍増となる年間6千万人を目標にしています。ところが、観光名所はオーバ



ーツリズムの混雑公害が問題となっています。地方への分散が望まれ、リピーターは地方に目を向けています。地方にチャンスが広がっているのです。隠れた魅力がある井波がその波に乗らない手はありません。波に乗るには魅力を感じさせる情報が必要です。

では、井波の魅力を感じさせる情報とは何でしょうか？

関心を高めるストーリー



「一向一揆」「散居村」を日本人なら中学で習い誰でも知っています。その知識に訴えるのです。その一つの「越中一向一揆」は瑞泉寺から始まり、金沢の富樫一族を滅ぼした「加賀一向一揆」につながり、北陸一帯

が真宗王国になるきっかけをつくったと言えます。時代が下がり、戦国時代後、前田侯により井波拝領地大工が置かれ井波彫刻の基になりました。要するに「井波が金沢のもとをつくり、金沢が井波をつくった」と言えると思います。(そんな説明は聞いたことはないでしょう。)もう少し詳しく見てみましょう。

一向一揆とは

室町時代末期、金沢(加賀)は守護の富樫一族の勢力下にあった。浄土真宗門徒が富樫に追われて井波の瑞泉寺に逃げてきた。富樫は福光の石黒に瑞泉寺攻めを命じたが、それを察した瑞泉寺門徒衆が石黒勢を攻め、山田川の田谷(県道金沢井波線沿い)での合戦で打破った。これが「越中一向一揆」です。(一向は浄土真宗を指し、一揆は農民・信徒が守護などの圧政に抵抗する運動を指します。)石黒が滅び、さらに加賀で起こった



「加賀一向一揆」により富樫も滅び、北陸一帯が浄土真宗の門徒衆により治められた。それからおよそ100年間、戦国時代となったが、北陸は「百姓の持ちたる国」として庶民・門徒衆が統治したのです。そのために浄土真宗が暮らしに浸透し、独特の習慣、北陸の風土がつくられ、それが今に続いていると考えられます。

以上は、歴史的側面です。次は地理のお話です。(イラスト原典:「はじめの三国志」)

散居村

閑乗寺公園から眺める散居村の景観に感嘆する人は多い。単に家が離れているだけの景色と言えばそれまでですが、なぜ散居村になったかを説明すると興味を持たれます。理由として検地(土地の測量)をごまかすためとか、水を管理するためとか諸説があります。砺波平野は井波から日本海に向



かってなだらかに傾斜しています。高きから低きに流れる水を隅々まで流すには水路の整備と管理が欠かせません。高瀬遺跡付近は荘園であったと言われていますが、古くから先人は人力で土地を開拓し水路を整備してきたのです。傾斜に沿って緩やかに階段状になった水田に水が張り巡らされていると説明すると都会人は感心します。散居の家々が水を見守ってきたとも言えます。

井波の知名度アップを図るには

井波の知名度を上げる宣伝方法として最も安く効果があるのは、ネット(巨大な情報空間)の活用です。ホームページやSNS(手軽な拡声仕掛け)で上述のストーリーを伝えたい。手間はかかりますが、ほとんど無料で発信できます。

交通広場から瑞泉寺を往復するだけのトイレ観光と揶揄される団体さんよりも事前に観光先をネットで調べる個人客を歓迎したい。個人客は、観光先を自ら選び、経済的に余裕がある人が多い。ネット上の旅行者が書き込むサイトは、観光先を選ぶ参考になるが、井波の書き込みは少ない。金沢、高山、五箇山を観光先としてネットで

調べる人達に井波を知ってもらえれば足を伸ばしてもらえます。彫刻工房に立ち寄り、注文する人も出るでしょう。その点、滞在を歓迎する東山荘、かしゃ旅館、ベッド&クラフト、古香里庵、新規の瑞雲などの井波への貢献は大きい。

観光名所として井波の知名度が上がれば、住民の誇りも上がります。知名度はブランド力にもなり、井波彫刻の応援にもなります。但し、来てよかったと思える受入れ態勢の整備も欠かせません。



知名度アップ

観光振興の一例

編集者の私ごとで恐縮ですが、10月、シアトルにいる親戚の日系3世6名を井波に案内しました。彼らは、よいとこ井波でTシャツを何枚も買い、瑞泉寺では数珠を求め、清都酒蔵では買おうとした日本酒は宿に持ち込めず諦めていました。決して裕福なアメリカ人ではないですが、旅先での買い物好きは日本人と変わりません。彼らが特に喜んだのは、あずま建ち高瀬での餅つき、習字、茶の湯でした。お世話くださった方々のお陰ですが、これは観光振興策の参考になると思います。

長野県小布施は、人口が9千人を割りそうな衰退から「文化立町」「農業立町」を掲げて見事に長野市至近のにぎわう町になり、知名度が上がり、観光立町になりま

した。井波も金沢至近の観光立町になりたいですね。

国の制度で地域の風致を守り活かす「歴史まちづくり法」を利用できれば文化財、景観が守られて知名度が向上し、観光立町になりうると思います。容易ではないですが、検討の価値はあります。



岩屋にスーパー銭湯がオープン

庄川の温泉を運んだお風呂に入りませんか！

待望の入浴施設ができました。場所は、勸学院の交差点を北に600m。サウナ、炭酸浴のある浴室、ゆらめく炎に癒されるロビー、漫画がいっぱいあるテレビコーナー、レストランもあります。

施設名「37Base」は、3世代が建物の中の7つの施設を基地（Base）として楽しんでもらいたい願いが籠められています。

9時から23時まで、元日のみ休日。平日700円、土日祝800円。3歳～小学生400円。砺波のゆらら（スーパー銭湯）がなくなり、井波に公衆浴場がないだけに、あったらいいなと思われていた入浴施設です。

施設をつくったのは、解体・処理・リサイクルを行う昭信機工の若き長谷谷社長（32歳）。父親隆信さんが34年前に始めた会社ですが、8年前、父親が急逝。それを継いで社長に。母親みつるさんと従業員とも力を合せて社業を発展させてきた。父親の地元へ感謝しろとの口癖を聞き、率先して働く父親の背中を見て育ち、地元のた



めになる温浴施設をつくらうと企画。周囲に猛反対されたが、業務で出る廃材を使い、地元で働く場をつく



れ、地元がお風呂を必要としているからと決断。人手不足の今、募集しても集まらないと言われたが、20名募集にSNSが功を奏し50人の応募があった由。全員採用したいが、できなかったことを気にかけている。元水田だったので収穫できなくなった4トンの米を消費することで貢献したいとレストランを併設した。

廃材、間伐材などからつくるチップを自動燃焼するボイラーを新設。また、隣接の昭信機工本社ビルを周囲の景観に合わせて黒に塗り替える気配りもしている。地元を愛するあつい情熱に圧倒されました。



若い力がここでも発揮されて井波の未来が明るくなると頼もしくなります。ぜひ、体も心も温まる「37Base」にお出てください。

伝統工芸に欠かせない漆づくりに注目

漆は縄文時代から塗料・接着剤として使われ、耐久性もあるので生活用品、美術品に使われてきました。桃山時代の南蛮貿易で漆器が欧州に輸出され、その美が珍重されて漆器は英語でjapanと言われ、漆のことを指す言葉になっています。

漆の木に傷を付けると身を守るために出す樹液が漆になり、極めて微量しか採れません。戦後、中国から大量に安価な漆が出回り、最近のデータでは年間国内消費量50数トンのうち国産は僅か3%に激減しています。国産漆の値段は中国製の8倍ほどになっています。

井波彫刻は何も塗らない無垢が基本ですが、漆を使う作品も多くあり、塗師には必要不可欠です。自分でつくりたいかと彫刻師の青山三郎さんが、漆の木の適地を探して7年前に植栽、100本程が成長して昨春、初めて漆を採取しました。（NHKニュースで放送されました。）

漆は土壌、気候を選びますが、庄川の山間の休耕田は適地のように



す。しかし、日本鹿（食害）や熊（体をこすりつける）の被害にあい、今年、新たに植林した70本は、全滅したとのこと。獣害防止策や網を設置するには費用が掛かるのが悩みになっている。

今は、漆の産地は、岩手、茨城などに限られているが、

漆原の地名が残る五箇山は、昔は産地であったと青山さんは推測している。

漆が成木になるには10年かかる。岩手では成木になったら1年間で樹液を取り尽くし、切り倒し



ていく。毎年採取するには10年以上分の林が要る。青山さんは、毎年、少量を採取して寿命を延ばす方法を取っている。それでも多数の漆の木が必要となる。気の長い話だ。国産漆の復活活動をするグループから青山さんに関心が寄せられている。青山さんは漆づくりをしたい人が増えることを望んでおり、心当たりがありましたら、末尾の連絡先にご一報ください。

観光立国を提言したデービッド・アトキンソン氏は、日光東照宮の修復を行う小西美術工芸社の社長でもあり、国産漆の枯渇に危機感を持ち、文化庁に働きかけた結果、文化庁から重要文化財の建物の修復には国産漆の使用を原則とする旨の通知が出された。

漆林の育成に取り組む青山さんの活動が実を結び、国産漆増産に寄与してほしいものです。多くの皆様のご理解と必要な際の応援をよろしくお願いします。

井波彫刻研究の米国大学生の来訪

プリンストン大学生のカリム・サルジ君が1月中旬に来日、1週間井波で井波彫刻について調査研究する予定です。日本の伝統工芸を衰退させてはならないと研究している学生で、井波彫刻が他の工芸品と比べて際立って美しいと絶賛しています。サルジ君からメールが届いた彫刻師の谷口信夫さんとZoomミーティングで話し合いました。ヨルダン生まれ、キプロスの国際ナショナル高校で教育を受けて卒業。東洋美術史、特に日本の美術史に興味があり、それが学べる米国の名門プリンストン大学に入学、今2年生の19歳です。

サルジ君によれば、日本の美術品を米国内の美術館で探すが、木版画、根付など人気あるものに比べて井波彫刻は見当たらない。井波彫刻には門外不出にする方針があるのかとの質問がありました。衰退する日本の伝統工芸を残すには、海外も含めてもっと広報する必要があると分かる指摘です。後継者育成についても関心が高く、実情を現地でも知ってもらえば違った意見が出るかもしれません。井波に関心を持ち、伝統技を残す必要性、有用性をしっかり考えています。異国の19歳の若者とは思え

ない、適確な意見を持っているのに驚きます。井波では多くの人に会いたい様子です。既に何人かの方とコンタクトを取り準備を進めています。

井波美術館についても話題になりました。その保存を唱え、同じように井波彫刻と職人技に関心を示し、井波に家を買って2年間滞在したミック・タムさんのこと、10数年前に井波に1年滞在し徒弟制度について研究し論文をまとめた米国人学生のことを伝えたら参考になるとたいへん喜んでいました。井波彫刻に注目し、将来を心配する外国人学生と交流することで得られる情報は貴重になるでしょう。皆さんで温かく歓迎したいですね。



Zoomで谷口さんと話すサルジ君

井波の紹介雑誌

新神戸駅隣の竹中大工道具館で12月3日まで2ヶ月ほど「井波彫刻 物語を彫る」企画展が開かれた。その様子のビデオは道具館のウェブサイトから見られ必見です。見事な写真集の図録を大工道具館から取り寄せました。増刷しても再度売り切れになる程の好評です。北陸新幹線の車内誌「西Navi」11月号に井波彫刻が表紙を含め4ページにわたって紹介されていました。これまで

もJAL機内誌、鶴瓶の家族に乾杯など井波が登場する記事、番組は数多く、井波の名前を高めてくれています。観光名所として認知されるには別な視点が要りそうです。



井波の最新情報

井波でも多くの方がFacebookで日々の話題を発信しています。その中で「日本遺産 木彫刻のまち 井波」は、地域おこし協力隊員の黒崎悠太さんが頻りに更新し

ており一番ホットに知ることができます。スマホをお持ちの方は検索してご覧ください。



「井波の未来ビジョン」最終報告会

1月20日15:00~16:30、井波総合文化センターで開催。13:00~17:00 マルシェ・展示。南砺市民は無料。1万円の協賛ご厚志を募っています。詳しくは「イナミライ2024」で検索を。

30~40代が中心のイナミライと井波地域まちづくり推進協議会がまとめた未来ビジョンが披露されます。歴史的資源を活用した観光まちづくり推進事業の一環として開催されるイベントです。

歴史・観光は井波発展のキーワード。今回のビジョンにより井波が抱える問題がどう展開するか。期待です！

訃報 松井角平さん

昭和38年、設立された東京井波会の発足メンバーであり、会長を務めて当会の発展に尽力くださった松井角平さんが12月8日ご逝去。多くの寺社仏閣の建築に携わった代々を引き継ぎ、井波に多大な貢献をしてくださったご功績に感謝しご冥福をお祈りします。

編集後記

▷「井波を観光の名所に」を井波から離れた立場で話題にしましたが、観光を望まない人もおり、不適切とのそしりを受けるかもしれません。それでも観光立国の波に乗りこえれば町と彫刻の発展の後押しになります。

▷巻頭の日の出写真は今回もAIにつくらせたもの。1年前に発表された生成AIは世界に衝撃を与え、爆発的に普及し、さらに進歩している。観光面でも利用したい。

▷生成AIに訊くと、欧米人の観光先情報源の1番はTripadvisor、次にJNTO（日本政府観光局）。JNTOに五箇山は出ているが、井波はない。開拓の余地大。

▷千秋先生が出された多くの井波に関する著書の基となった調査研究資料をご自宅で見ました。残せる方法があると良いと思うのは編集者だけではないでしょう。

▷当会につながりをご希望の方は次にご一報ください。

東京井波会連絡先 電話) 090-1532-0717 kthknkim@gmail.com 中嶋勝彦 (編集者)

▷「井波だより」で検索するか、右のQRコードからバックナンバーをご覧ください。

